



ブルーの
アイシャドウが
きれいだね



◀釣り上げ直後はブルーのアイシャドウが鮮やかで美しい
▶インダイも交じった
▼底付近を探るとハナダイがよく釣れた



吉岡進の釣りを楽しく感じるままに

E2F

Enjoy Every Fishing no.01

九十九里飯岡沖の 一つテンヤマダイ

撮影◎本誌編集部

Profile ◆よしおか すずむ
1982年生まれ。ヨッシーの愛称で親しまれている。一つテンヤマダイ、ライト系オフショアルアーを得意とする。ジャッカルソルトプロスタッフ、シーガーインストラクター。

▶リフトさせたとあとフール中のアタリに注視する



掛けた瞬間が
たまらない！

ヨッシーこと吉岡進がルアー釣りを中心に色いろな釣り物を狙い、毎回の釣りの楽しさを伝えていく新連載「Enjoy Every Fishing(略してE2F)」がスタート。
第1回はヨッシーが得意とする一つテンヤマダイ。小型を中心に数が釣れていて、多彩なゲストも交じる九十九里飯岡エリアへ釣行した。
釣れるマダイは300〜800グラム前後を主体に1キロ級交じりで好日にはトップ2ヶタという釣れっぷり。ゲストも多彩でハナダイやインダイ、カンバチ、カサゴ、メバルなどが釣れている。



▲BINBINTENYA TAIMU
▼TG BINBINTENYA TAIMU FREE

★ヨッシーはスピニングタックルは固定式のピンピンテンヤ鯛夢(写真上)、ベイトタックルはTGピンピンテンヤ鯛夢 遊動(写真下)を使っている。今回は5〜8号を使用

★竿先が震えるアタリはやり過ぎ、竿先がモタれるアタリに合わせるとマダイがヒット

●リリースサイズの小ダイが多いときは、スピニングタックルでテンヤを投げて広範囲を探る。小さなマダイにエサを取られないようにシャープなシャクリを繰り返してテンヤを素早く動かし、泳力のある良型のリアクションバイトを狙う。

一つテンヤの釣り方1 リアクションバイトを誘発させる



★当日は300〜500グラムの小ダイが中心だった



◆本編(62ページより)は高橋剛が執筆。船釣りの楽しさをヨッシーとともにお伝えします！

▼優光丸では5月末まで生きエビ(サルエビ)で釣りができる

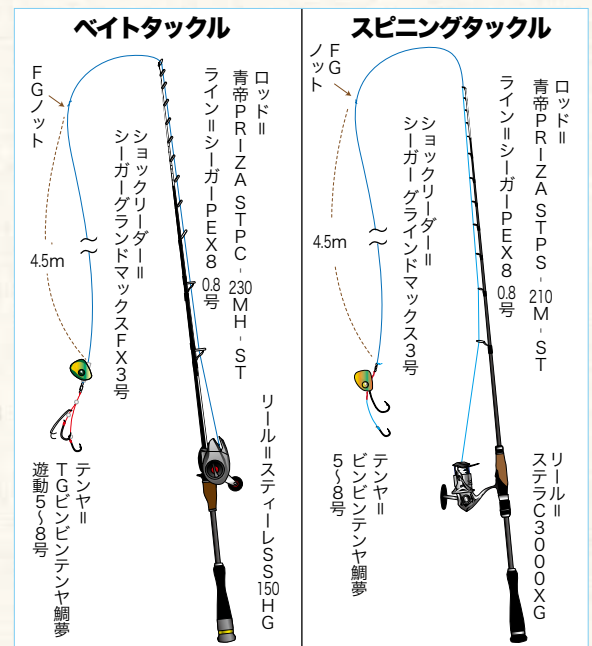


▲釣り場は飯岡沖の水深30メートル前後

#Enjoy Every Fishing Tackle guide

一つテンヤマダイタックル

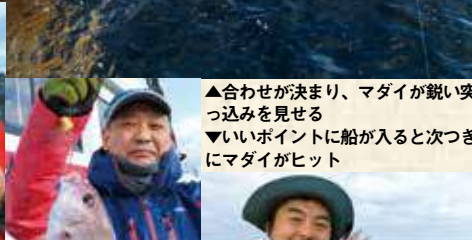
●タックルはテンヤを投げて広く探るときはスピニング、船下を狙うときはベイトと使い分ける。ベイトタックルはスピニングに比べて糸フケが出にくい。糸フケを最小限にすることで着底が明確になり底が荒いポイントでも根掛かりを避けやすく、フォール中のアタリも取りやすい。



#Features of the fishing spot

多彩なゲストが釣れる飯岡沖

●一つテンヤでは豊富なゲストが釣れるのも魅力の一つ。目下はハナダイや根魚、青物などが顔を出す。



#船宿インフォメーション

九十九里 飯岡港 優光丸

☎090-7731-3470
 (詳細は巻末の情報欄参照)

●マダイのポイントを知っている船長は、アタリが遠くなればすぐに移動してくれるためテンポよく釣りができてモチベーションを保ちやすい。

釣り方やエサの付け方など分からないことがあればいねいに教えてくれるから、なんでも聞いてみよう！また、日により船長の妹・有沙さんが同船して誘い方などを教えてくれることもある。ほかに優光丸は「民宿浜ゆう」を併営しており、宿泊のほか、地元飯岡の旬の味をお手ごろ価格で提供している。

●料金＝一つテンヤマダイ乗合一人1万2000円(エサ、氷付き)

●備考＝予約乗合5時出船。午後船は電話確認



▲大型船で快適な釣りが楽しめる

▲出船30分前までに宿で受付をして座席札を取る

▲昼食は民宿「浜ゆう」がおすすめ



▲アフターフィッシングは「民宿浜ゆう」でランチタイム。ヨッシーは天ぷら定食に大満足



#How to attach fishing bait

エサの付け方

